

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

緊急地震速報の訓練について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台

2024 年 9 月

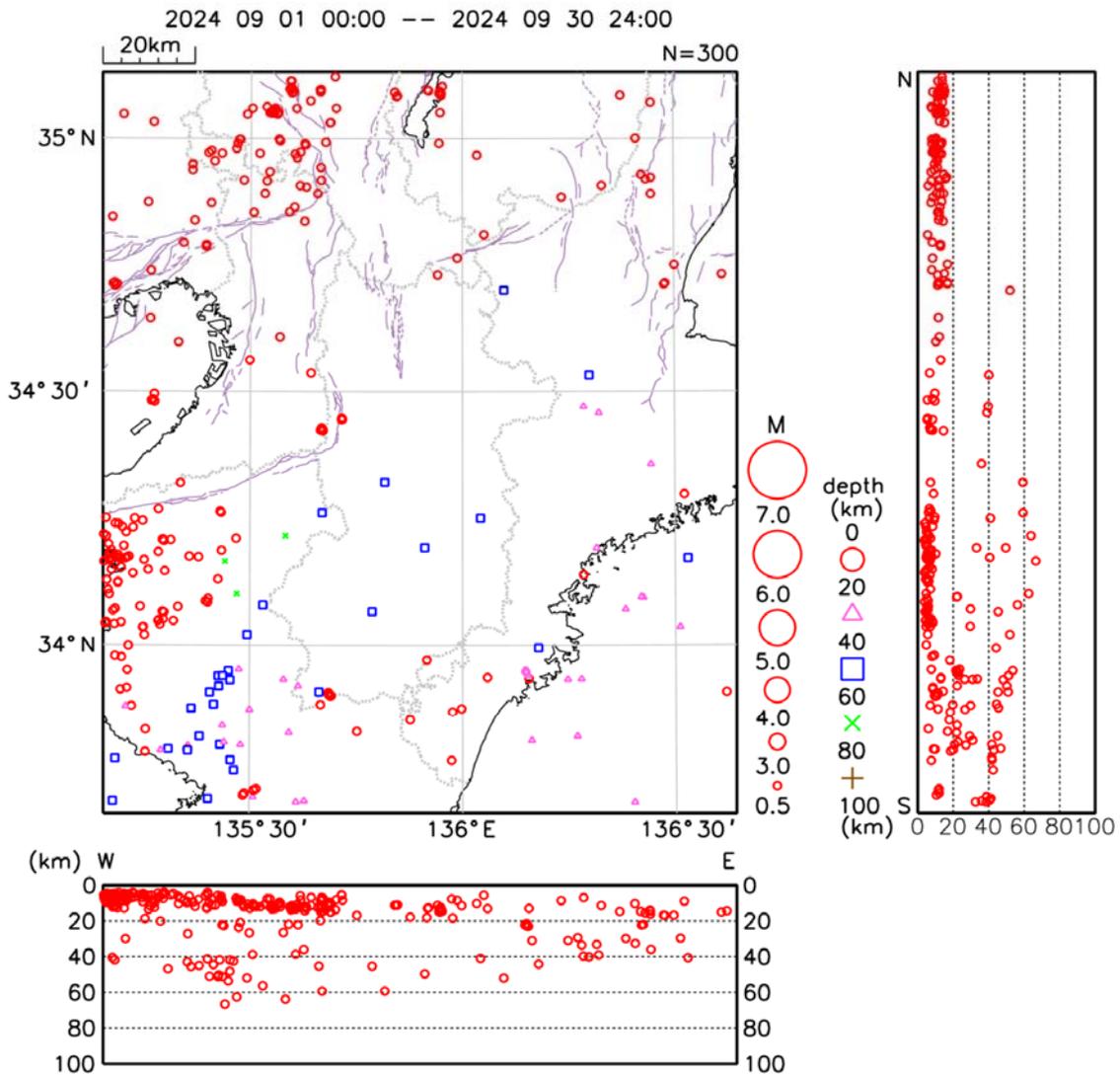
本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>



【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

15日22時18分 愛知県西部の地震（最大震度1、深さ41km、M3.3：震央分布図範囲外）により、奈良県内では宇陀市で震度1を観測しました。

【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2024年09月15日22時18分	愛知県西部	34°52.8' N	136°53.3' E	41km	M3.3
震度 1：宇陀市菟田野松井*					

*印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布図】

2024年09月15日22時18分 愛知県西部 34°52.8' N 136°53.3' E 41km M3.3



【地震一口メモ】

～緊急地震速報の訓練について～

気象庁では、11月5日（火）に緊急地震速報の全国的な訓練を実施します。地震による揺れから身を守ることが、地震・津波防災の第一歩です。緊急地震速報を見聞きした際や、突然、強い揺れを感じた時は、周囲の状況に応じて、あわてずに適切に身を守る行動を行う必要があります。平時から防災訓練などで繰り返し練習しておく必要があります。この機会に身を守る行動を学びましょう。

訓練実施日時

令和6年11月5日（火）10時00分頃

参加機関等

国の機関、地方公共団体、学校、民間企業など

訓練内容

訓練参加者は、訓練用の緊急地震速報を見聞きした際に、速やかに安全な場所へ移動するなど、それぞれの場面に応じた身の安全を確保する行動を実施する。

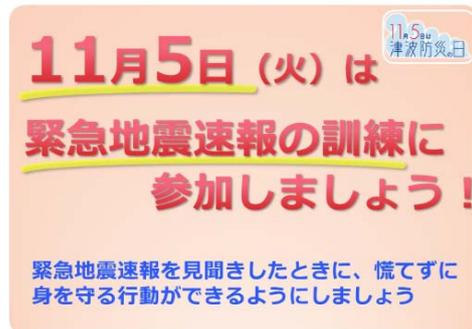
緊急地震速報の配信

訓練用の緊急地震速報を防災行政無線、行政機関等の館内放送、スマートフォンの防災アプリで配信する。

訓練の詳細は気象庁HPを参照ください。

気象庁 緊急地震速報の訓練（令和6年11月5日）

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/kunren/2024/kunren.html>



気象庁は、令和6年能登半島地震（1月1日16時10分の石川県能登地方の地震）で緊急地震速報を見聞きした方を対象にアンケート調査を行ったところ以下の傾向がありました。

- 揺れを感じた時の詳細な行動
「なにもできなかった」の回答は、震度が大きいほど割合が高い
- 緊急地震速報を見聞きした際の行動（場所別の比較）
乗り物で「なにもできなかった」がやや多い
乗り物にいた人は、他の場所にいた人に比べて、「その場で身構えた」などの行動をとった割合が低かった

地震の揺れ（震度）が大きくなるほど、揺れにほんろうされて適切に身を守る行動がとれない傾向があります。また、乗り物に乗っている時にも適切に身を守る行動がとれない傾向があるため、乗り物に乗っている時に緊急地震速報を見聞きした場合でも、周囲の状況に応じて、あわてずに適切に身を守る行動がとれるように、日頃から地震が起きた際の行動について深く考えておきましょう。



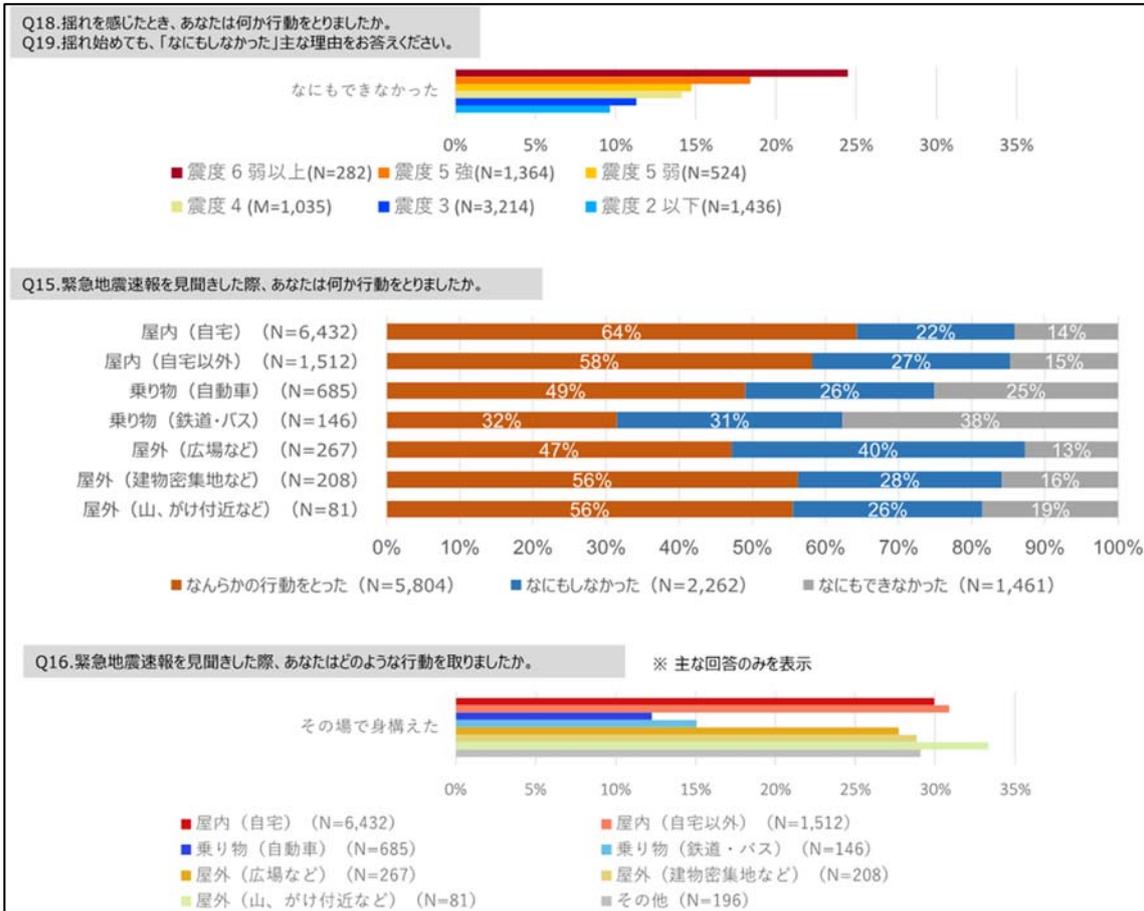
鉄道・バス

つり革、手すりにしっかり
つかまる



自動車運転中

急ブレーキはかけずに、ゆるやかに速度をおとす
ハザードランプを点灯させて、まわりの車に注意
をうながす



2024年1月1日16時10分頃の最大震度7を観測した石川県能登地方の地震での緊急地震速報に関するアンケート予備調査（一部抜粋）

詳細は、以下の URL か二次元コードからアクセスすることができます。
<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/shiryo/pre-survey/pre-survey.html#survey>

